

アウトレットモール市が誘致して大丈夫？

12月議会

砂田市議の一般質問

砂田市議 小矢部市はアウトレットモールを誘致しようとしている。進出が決まれば、市が用地を買上げ、造成して、アウトレットモールの運営会社に貸し付けることになり、市には大きな財政負担が生じる。全国的には自治体が開与している例は余りない。

企画室長 これまで数社の開発事業者を訪問し、誘致活動を積極的に展開している。個人消費動向の低迷など商業を取り巻く環境は厳しいが、今後も開発事業者への訪問を重ね、事業計画の提案もしながら誘致の実現に取り組んでいきたい。

市民から大型商業施設の誘致を望む声があり、市外、県外から集客を期待でき、市の賑わい創出にもなる。その受け皿となる東部産業団地の造成を行う必要がある。

10年、15年で撤退？ 残るのは「市の借金と空き地」とならないか

砂田市議 まちづくり特別委員会の視察によると、アウトレットモールは当初10年で撤退という契約だったそうだが、売り上げ次第では契約の延長もあるようだった。このことは反面、売り上げが期待できないと途中での撤退もあるのではないかと、市が多額の財政負担をして東部産業団地を造っても撤退されたら、市の借金と空き地だけが残るのではないかと。

企画室長 開発事業者は多額の投資を行うし、進出して採算がとれるかどうかをしっかりと見きわめているものと思う。十分に検討された上での正式合意となるので、途中での撤退というリスクは低いと思う。(契約は10年とか5年延長とか期限を区切るのではないかと)の質問に答えて(交渉)しますので、契約年数は発表できる段階ではない。

富山新聞報道

用地購入、団地造成に200〜300億円 市の借金で

富山新聞1月13日付では「用地購入、団地造成などの事業費は200〜300億円に上る」進出が決まれば、市が金融機関から借り入れ、テナントからの借地料で返済することになる。万が一、モール自体が撤退することになれば、損害が発生する可能性も皆無ではなく、市議の一部には懸念の声もある。」と報道しています。

小学校にもエアコンを

砂田市議 市長が退職金を返上して中学校の普通教室にエアコンを設置したことが刺激になって、県内でも小中学校にエアコンを設置するところが増えてきている。

こども市長 退職金を返上して小学校にエアコンを設置してはどうか。

教育次長 まずは学校の耐震化を最優先した上で、ということにしたい。

桜井市長 エアコンと退職金は切り離して考えるべきだ。中学校は夏休みでも受験に向けた補習授業や、9月に体育大会があるその準備のために登校する機会が多いが、一方小学校はいつでもないので、壁掛けの扇風機でもよい。たゞ校長会からは、授業力の向上に設置するという要望が出されている。

常勤化、勤務時間の延長を

学校図書館司書、スタディメイトや適応指導教室指導員

砂田市議 発達障害、ちよと気になる子の問題で、先生と子どもをつなぐ上で、スタディメイトや適応指導教室指導員を常勤化すれば、コミュニケーションの拡大が図られるのではないかと。

教育次長 支援を必要とする子が増加しており、市としては支援の充実を図るため、新年度の予算編成の中で配置時間の拡大が検討されている。

桜井市長 学校図書館司書は県内に先駆けて専任配置しているが、現在1日4時間の配置である。より効果的な指導を行うには配置時間の拡大が必要であり、新年度予算編成の中で検討していく。

美術館新設の是非

芸術活動を支援できるかが判断基準

カナメは専門職員の雇用

共産党が予算要望で

のように求めています。

日本共産党小矢部市委員会は昨年12月27日、桜井市長に新年度予算に関する要望書を書きました(写真)。その中で美術館(いわゆるアートハウスの施設)建設について次

美術館の新設については、芸術が子どもへの創造性、批判的精神をはぐくみ人格形成に資する役割を十分に発揮できる施設とできるかどうか、また、高齢者の認知症軽減に果たす臨床美術を取り入れることができるかどうかを、建設の是非を判断する基準とし、市民の芸術活動を支援すること。その際重要なことは専門職員を雇用できるとどうかだ。

アートハウス

「いまは建設を是としたい」

桜井市長が答弁

12月議会

12月議会ではアートハウスの施設について桜井市長が「いまは建設を是としたい」と

初めて表明しました。創生会・尾山喜次議員の代表質問に答えたものです。桜井市長の答弁要旨です。

(1) 寄付金さえ出せば何でもつくるのかという批判もあるがそうではない。市民が等しく文化芸術環境を享受できるようにすることは市民生活の向上のために必要だ。その整備のために篤志家さんが申し出られたのであり、それを断るのはどうかという思いがある。

(2) 小中学校における美術の授業時間が以前に比べて極端に少なくなっており、決してよい環境である。高齢者にも芸術の拠点は必要で、市芸術文化連盟からも臨床美術への積極的な支援の約束も頂いており、まさにアートの拠点の役割を果たせると思う。

(3) 建設場所がクロスランドおぼろである。今年50周年でさまざまな事業をクロスランドで実施したが、出演されたみなさんが異口同音にたいへん素晴らしい施設だと。その地にアートハウスを整備すればさらに芸術文化の拠点としてグレードアップがはかれると確信した。

